

## 古着でワクチン支援を

辻本真子・日本リユースシステム営業本部長



古着を有料の袋に詰めて回収し、途上国にポリオ(小児まひ) ワクチンを届ける「古着deワクチン」事業を2010年から進めている。

海外でリユース業を展開する中で、ワクチンがないばかりに多くの子どもが命を落とす現状を目の当たりにしたのがきっかけだ。

サービス利用者は、30窶まで入る専用の回収袋を1袋3300円で購入し、古着を詰めて送る。1袋売れるごとに5人分のポリオワクチンをミャンマー、ラオス、ブータン、バヌアツに寄付している。これまでに累計約650万人分を超えるワクチンを提供した。

古着は、売ることも家庭ごみとして捨てることもできるため、始めた当初は回収袋を有料で買うことに抵抗を示す人が多かった。だが、環境保護や社会貢献に対する関心の高まりを背景に、現在は毎月約2万5

千袋の利用がある。

回収袋の利用者はお金を払って衣類を手放すため、袋の中に汚れた衣類が入っていることは驚くほど少ない。誰かに大切に持ってほしいとの思いが強く感じられる。

回収した古着はカンボジアの直営店に送り、衣類を種類ごとに細かく選別する。直営店のスタッフの多くは、ポリオの後遺症で手足が不自由になった現地の人たちだ。

1着5ドルで販売するほか、先進国も含め世界の30カ国に再輸出して有効活用している。

衣類を手放す際、ワクチン支援で国際貢献できるという選択肢を多くの人に知ってもらいたい。

つじもと・まこ 1988年京都府生まれ。2021年11月から国内でリサイクルを展開する「日本リユースシステム」で営業本部長として事業を統括。



国連の持続可能な開発目標(SDGs)は、限られた資源の有効利用や廃棄物の排出抑制を、生産者と消費者双方に求める。大量生産、大量消費の代表格とされたファッション産業でも環境に配慮した新たな動きが広がっている。

地域  
×  
SDGs  
×  
くらし